

2025年度 決算説明会資料

2026年5月14日

株式会社UACJ

東証プライム
証券コード

5741

UACJ

Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

1 2025年度業績および2026年度通期見通し

2 事業環境認識

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 ご参考

【資料全体に関する留意点】

- 事業利益： 持続的な事業活動の成果。営業利益から、棚卸資産影響、一時的・特殊な重要性のある損益を控除したもの
- 最終利益： 親会社の所有者に帰属する当期利益
- Adjusted EBITDA： EBITDA - 棚卸資産影響等
- 株式・株価： 2025年10月1日に株式分割(1株→4株)を実施。過年度の数値は株式分割後ベースに調整
- UATH： UACJ (Thailand) Co., Ltd.
- TAA： Tri-Arrows Aluminum Inc.
- UWH： UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc
- 表示単位未満は、四捨五入のため合計値が合わない可能性があります。

2025年度 決算概況

売上収益で初の1兆円超え。事業利益、最終利益、Adjusted EBITDAでも過去最高を更新
 期末配当金を、25円/株*から35円/株 (+10円/株)へ上方修正し、年間配当金は55円/株

- 缶材需要はグローバルで順調に伸長
- 米国リサイクル原料処理能力が拡大し、収益へ貢献
- 日本からの輸出増加と価格改定の効果が発現
- **為替の変動**(パーツ高ドル安)でUATHの収益が減少
- 年間配当金を**55円/株**へ上方修正



(億円)	2024年度 実績	2025年度 実績	差異
販売数量(千t)	1,266	1,317	51
売上収益	9,988	11,817	1,829
事業利益	459	482	23
最終利益	280	389	109
Adjusted EBITDA	840	883	43
年間配当金(円/株)	37.5	55.0	17.5

2026年度 通期見通し

中東における地政学的リスク、北米動向等、事業環境に不透明感がある中でも、売上収益、事業利益、Adjusted EBITDAでさらなる増収増益を目指す

- アルミ需要はグローバルで**着実に伸長**
- 日本では**半導体製造装置向け厚板の回復**が確実に
- 中東情勢の影響額を**事業利益の20%程度**と見込み、通期計画へ織り込む
- 需要捕捉や価格改定等で**事業利益の増益**を計画するも、棚卸資産影響等の減少を見込み**最終利益は減益**
- **年間配当金は58円/株**(前期+3円/株増)を計画



(億円)	2025年度 実績	2026年度 見通し	差異
販売数量(千t)	1,317	1,365	48
売上収益	11,817	13,000	1,183
事業利益	482	650	168
最終利益	389	280	△ 109
Adjusted EBITDA	883	1,090	207
年間配当金(円/株)	55.0	58.0	3.0

1 2025年度業績および2026年度通期見通し

2 事業環境認識

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 ご参考

事業環境認識(2025~2026年度)

グローバルでのアルミニウム需要は引き続き拡大傾向

	日本	北米	東南アジア・その他地域
需要動向	缶材 安定した水準で推移	缶材 需要予測に変化はなく、 年率3%での成長 を見込む	缶材 堅調に拡大 東南アジア域: 経済成長に伴う拡大 欧州域: ガラス瓶からの置き換え需要に伴う拡大
	半導体製造装置 需要は回復基調 2025年後半から需要が好転。2026年は着実な回復局面となる見通し		
	航空宇宙・防衛関連材 地政学的リスクを背景に需要が長期的に拡大する見通し	自動車部品 BEV化の推進力が鈍化	自動車熱交換器材 自動車生産・販売台数は緩やかな回復基調にあるも、インフレ進行による消費鈍化がリスク
販売・利益	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧州向け缶材輸出が増加 ● 半導体製造装置向け厚板の増加により品種構成が好転 ● 2025年度からの価格改定効果が年間を通じ発現 ● 原材料・副資材価格の高騰の影響を注視 	缶材 <ul style="list-style-type: none"> ● 長期的な顧客との信頼関係をベースに持続的な販売契約を獲得 ● 熱間圧延機的能力増強投資の効果が2026年度より本格化 ● リサイクル設備稼働で収益拡大 自動車部品 <ul style="list-style-type: none"> ● 自動車の軽量化ニーズを確実に捕捉し、徹底したコストダウンを継続 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部缶材で、中東向けの出荷はあるも、影響は軽微 ● 当社グループの安定した供給力でサプライチェーンに貢献 ● 2026年度後半よりUATHからも欧州向け缶材の出荷が新規開始予定 ● 原材料・副資材価格の高騰、為替変動の影響を注視

1

業績

2025年度業績および2026年度通期見通し

事業利益は第4次中期経営計画を1年前倒しで達成見通し

(単位:億円)

	FY24 (実績)	FY25 (実績)	増減	FY26 (見通し)	増減
売上収益	9,988	11,817	1,829	13,000	1,183
事業利益	459	482	23	650	168
棚卸資産影響等*	115	287	172	△ 10	△ 297
営業利益	574	769	195	640	△ 129
親会社の所有権に帰属する 当期利益	280	389	109	280	△ 109
1株あたり当期利益 (円/株)	146.5	214.7	68.3	154.6	△ 60.1
Adjusted EBITDA	840	883	43	1,090	206
前提条件					
LME (\$/t)	2,526	2,772	246	3,200	428
為替レート(円/\$)	153	151	△ 2	153	2
為替レート(THB/\$)	34.9	32.3	△ 2.6	32.5	0.2
ドバイ原油(\$/bbl)	78	72	△ 6	90	18

*UWH、UATHの減損損失を含む

1

業績

アルミ板 品種別売上数量

グローバル缶材需要の拡大を捕捉し、2026年度は過去最高販売数量を計画

(単位:千t)

	FY24 (実績)	FY25 (実績)	増減	FY26 (見通し)	増減
缶材	851	901	50	947	46
日本*1	215	214	△ 1	231	17
TAA*2	405	443	38	443	0
UATH*3	262	274	12	298	24
内部取引*4	(31)	(30)	(△ 1)	(25)	(△ 5)
自動車材	134	137	3	138	1
厚板	42	39	△ 3	47	8
箔地	42	41	△ 1	42	1
その他一般材	197	199	2	191	△ 8
合計	1,266	1,317	51	1,365	48

*1 日本における販売(輸出分含む)

*2 TAAIにおける販売(日本、UATHからの出荷分含む)

*3 UATHIにおける販売

*4 各拠点間の内部取引による重複数量

1

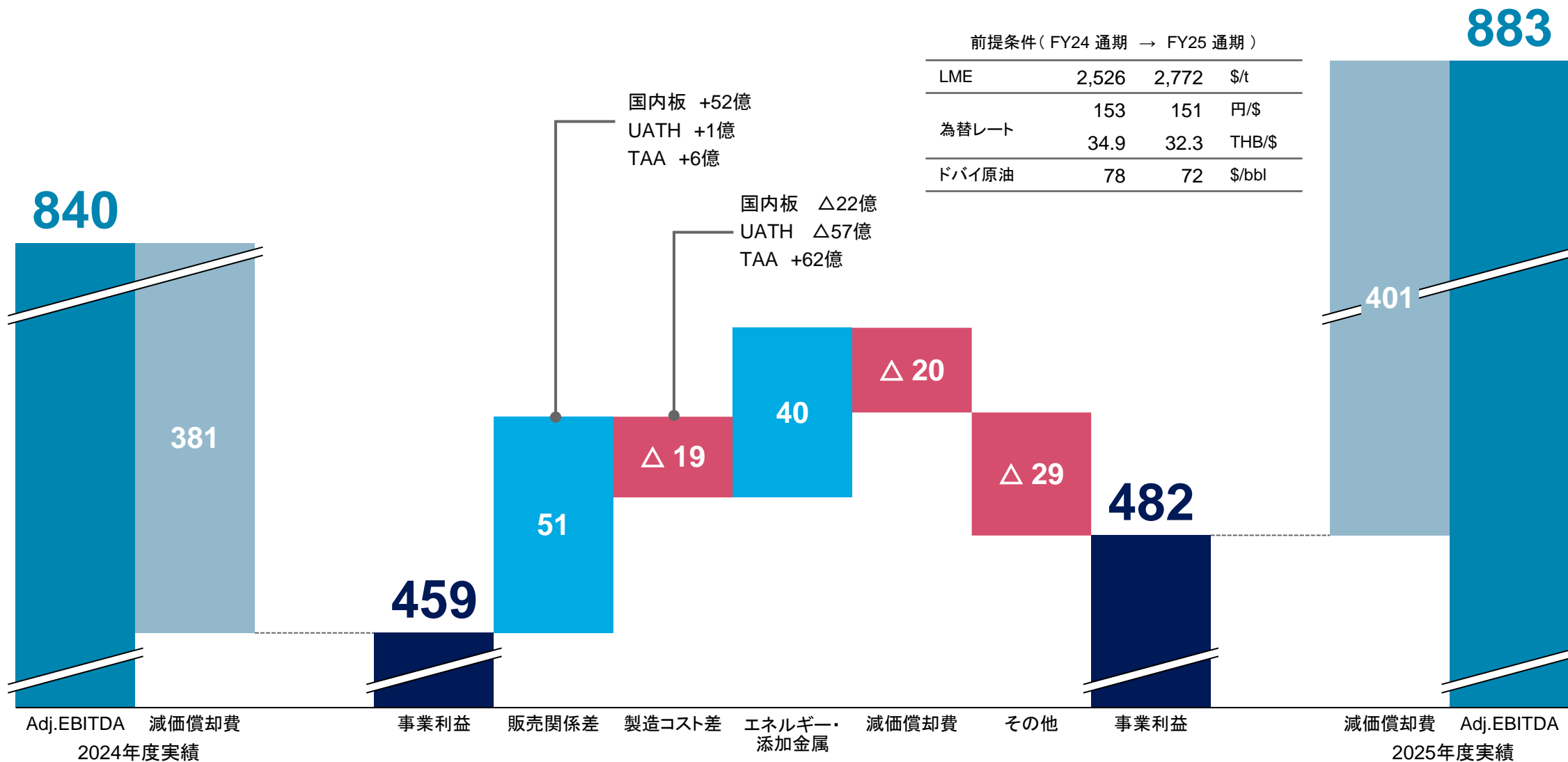
業績

【24年度実績 対 25年度実績】事業利益・Adjusted EBITDA 分析

販売数量の増加、リサイクル原料活用および価格改定効果等が収益に貢献

前提条件 (FY24 通期 → FY25 通期)

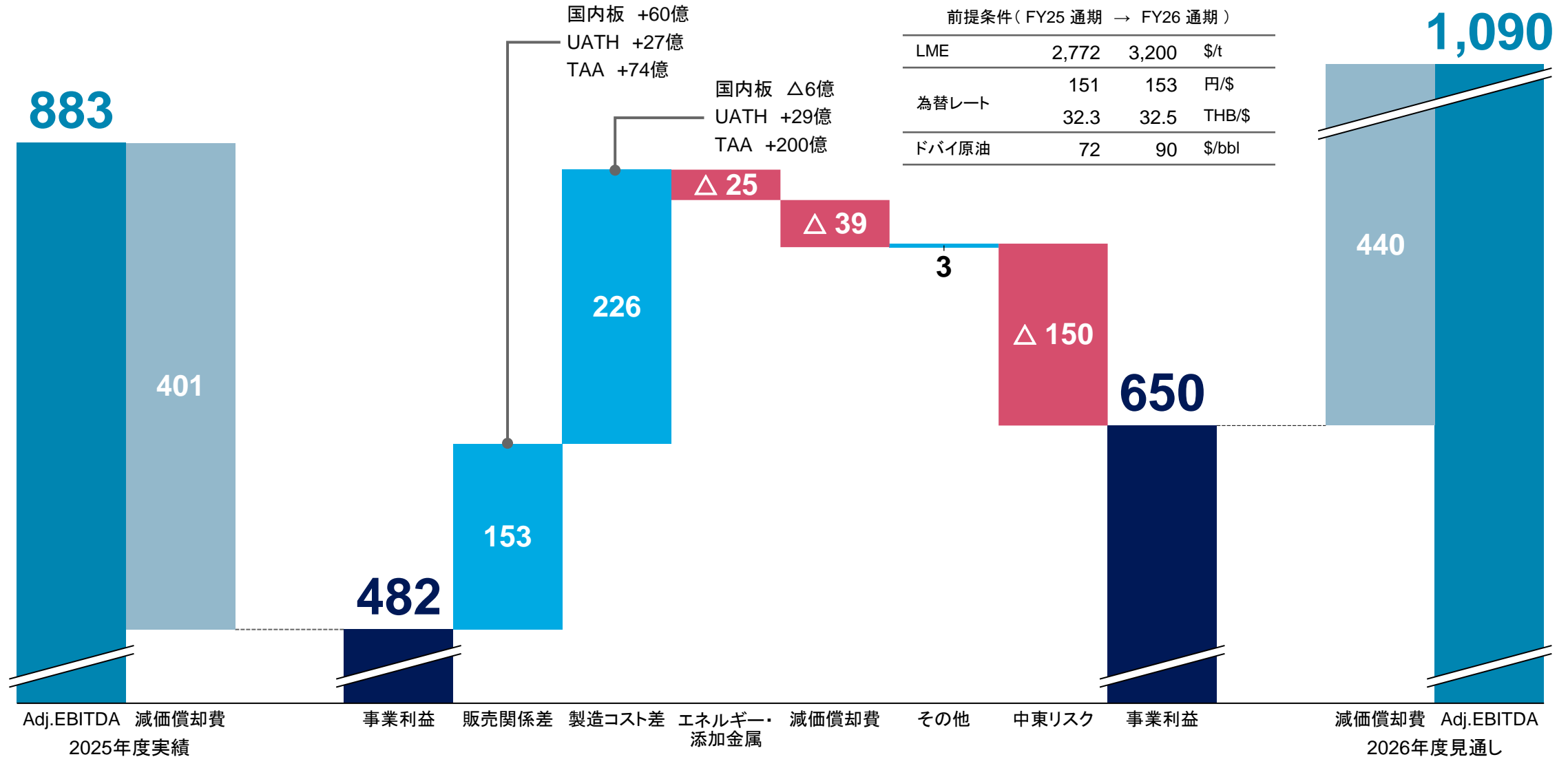
LME	2,526	2,772	\$/t
為替レート	153	151	円/\$
	34.9	32.3	THB/\$
ドバイ原油	78	72	\$/bbl



1

業績

【25年度実績 対 26年度見通し】事業利益・Adjusted EBITDA 分析 販売数量増、リサイクル原料活用等による増益トレンドを継続



1

業績

連結財政状態計算書

アルミ新地金等の価格高騰により、棚卸資産が増加

2024年度末総資産 9,700億円



2025年度末総資産 1兆1,212億円



増減額: +1,512億円

主な増減要因

流動資産

棚卸資産 +509億円
地金市況高騰による影響

非流動資産

有形固定資産 +285億円
戦略投資の進展、UATHの減損損失の計上
のれん △56億円
UWHの減損損失の計上

有利子負債

+480億円
地金市況高騰による運転資金の増加

D/Eレシオ

1.0倍
⇒第4次中計目標水準を堅守

1 | 業績 グループ会社の減損損失計上について

(UWH)のれん

発生理由	<ul style="list-style-type: none">● 事業環境の急変を起因とする将来計画の見直しにより、買収時に発生したのれんの評価額を減額
事業環境の変化	<ul style="list-style-type: none">● 米国での化石燃料に対する規制緩和やEV補助金の見直し等により、電気自動車を中心に北米自動車産業の不透明さが急拡大した結果、新規車種開発の中止が相次ぐ
会計上の影響	<ul style="list-style-type: none">● 営業利益の減少 △56億円(CFへの影響なし)
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none">● 米国の自動車市場は中長期的に成長が見込まれる● 自動車の軽量化ニーズに貢献できるアルミニウム部品の役割は継続● 自動車分野への投資配分の見直し、既存生産能力の最大活用 <p>⇒ 北米自動車部品事業の再構築を図る</p>

(UATH)遊休設備

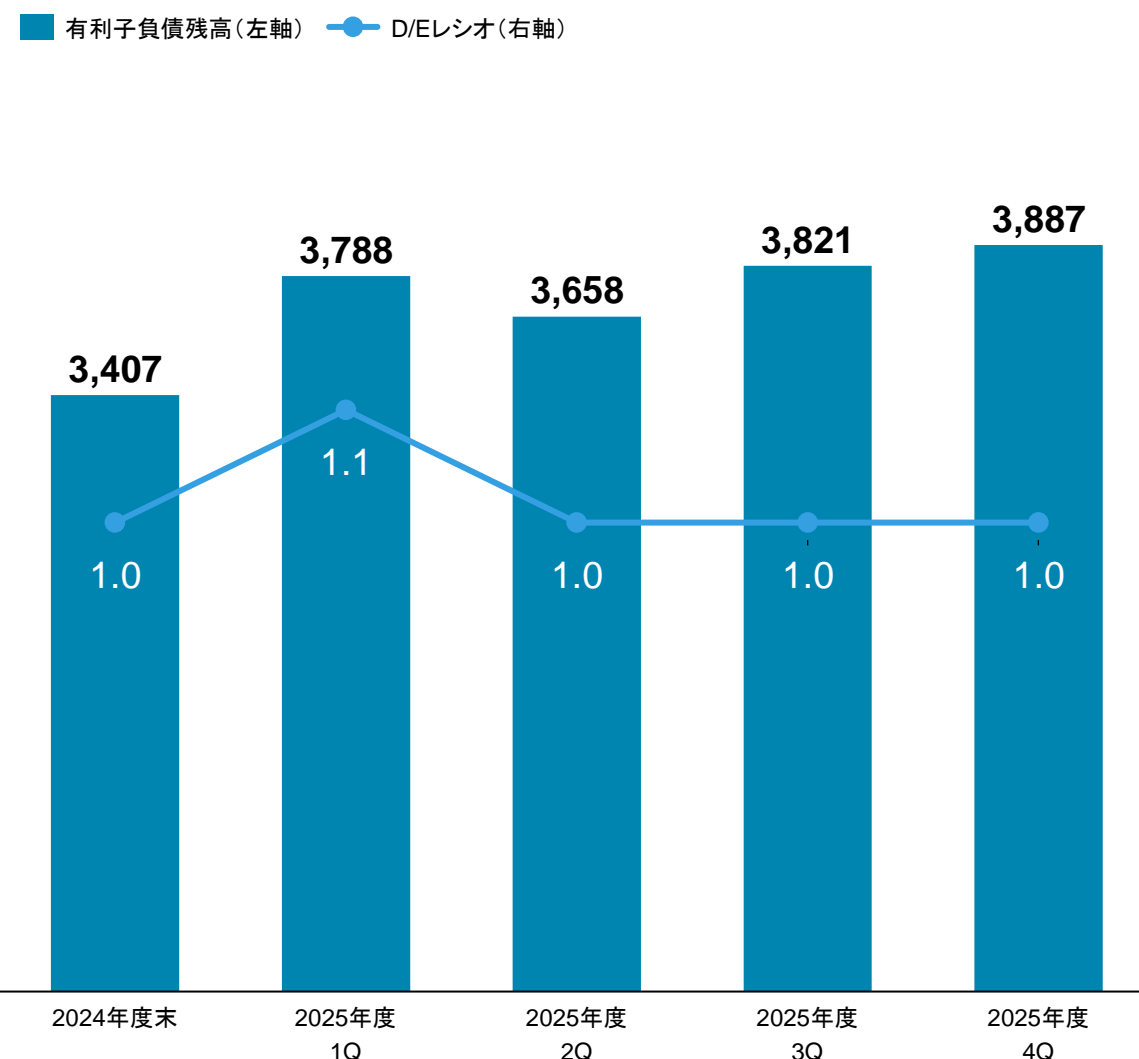
発生理由	<ul style="list-style-type: none">● 生産性を向上させるため生産設備の集約を行った結果、一部の設備について稼働を停止● 今後、使用見込みがないことから当該設備の簿価を減額
会計上の影響	<ul style="list-style-type: none">● 営業利益の減少 △18億円(CFへの影響なし)

1 | 業績 連結キャッシュ・フロー計算書

連結キャッシュ・フロー(億円)

	2024年度	2025年度
税引前利益	430	637
減価償却費	381	401
債権債務増減他	△721	△397
営業キャッシュ・フロー 計	91	640
設備投資 他	△369	△595
フリーキャッシュ・フロー	△278	45
ファイナンススキーム・配当他	△147	△120
現預金増減(△は増加)	139	△321
外貨建て借入金換算差 (△は増加)	△13	△84
有利子負債(△は増加)	△299	△480

有利子負債残高(億円)・連結D/Eレシオ(倍)



* 連結D/Eレシオは、有利子負債のうち借入金・社債を基に算出し、また劣後特約付ローンの資本性を考慮

1

業績

設備投資・減価償却費

設備投資は計画通り進捗中。

一般投資による安定操業体制構築と、積極的な戦略投資遂行による企業価値向上へ

(単位:億円 ※検収ベース)

	FY24	FY25	FY26 (見通し)	FY24~26 累計	FY24~27 見通し
設備投資	419	527	500	1,446	1,850
一般投資	188	208	300	696	900
戦略投資	231	319	200	750	950
補助金等		△120		△120	△200
設備投資計 (補助金控除後)	-	-	-	1,326	1,650
減価償却費	381	401	440	1,222	1,665

1 2025年度業績および2026年度通期見通し

2 **事業環境認識**

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 ご参考

中東情勢とその影響

直近の中東情勢による当社事業および業績への影響を注視 お客様への安定供給維持のため、対応を継続

<p>現状認識 (2026年5月14日時点)</p>	<p>調達 日本国内、UATHIにおいて一部新地金、副資材等の取引実績あり。TAAの新地金調達は主としてカナダから実施</p> <p>販売 UATHIにおいて取引実績はあるも、影響度は小さい</p> <ul style="list-style-type: none"> ● UACJグループにおいて、<u>事業および業績への重大な影響は、現時点で顕在化していない</u> ● 調達に遅れが生じる可能性がある品目は、代替調達の交渉を進めている ● 引き続き、安定した操業・販売のため、事態の動静を見極め適切な対応を取っていく
---------------------------------------	--

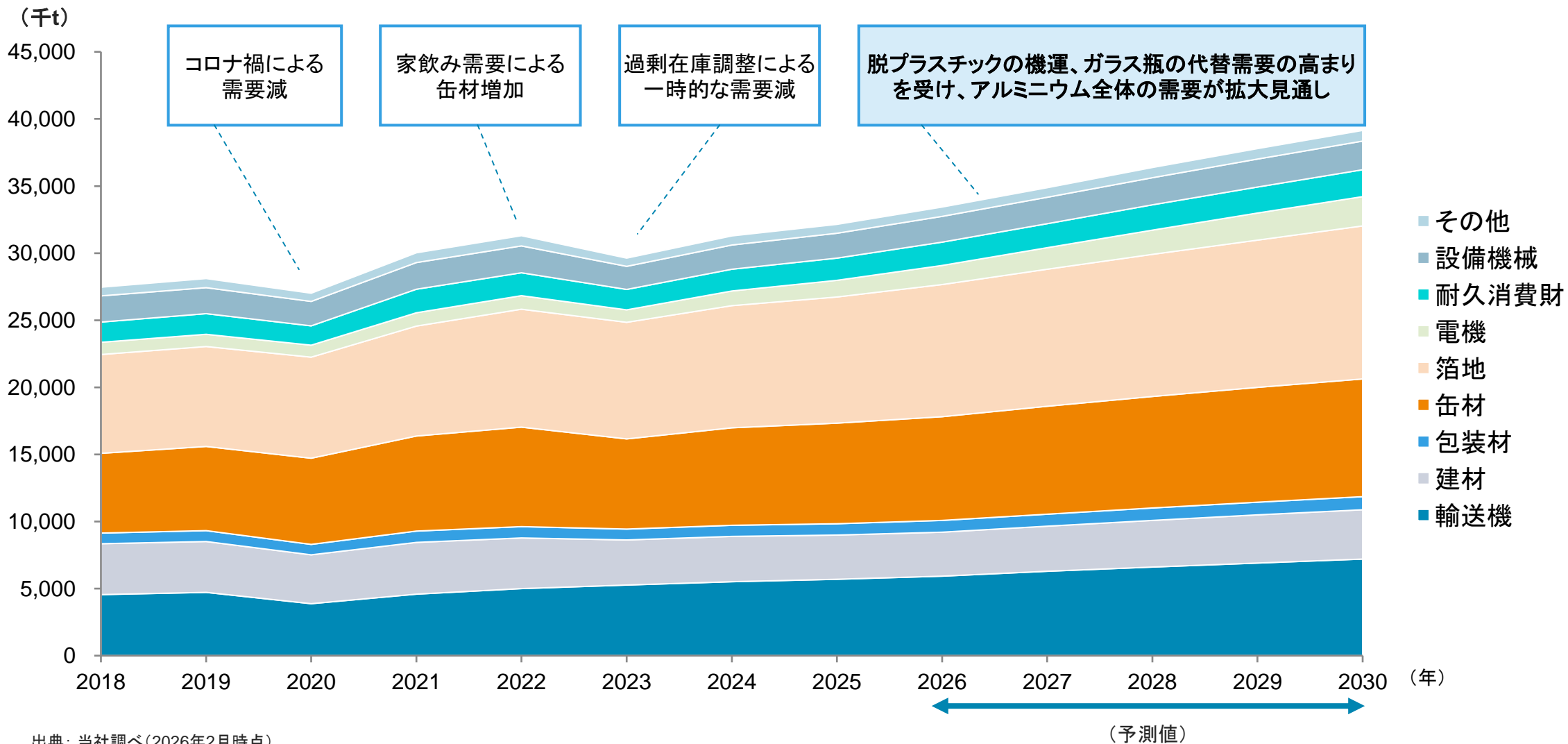
2026年度通期業績見通しへの織り込み

<p>想定リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達面： 副資材含む原材料の調達価格高騰によるコストアップと販売価格への転嫁の遅れ ● 販売面： サプライチェーン上の供給途絶の影響拡大による全体的な需要の減退
<p>リスク織り込み金額 (2026年5月14日時点)</p>	<p>2026年度通期事業利益の約20%程度 (事業利益への影響額 150億円)</p>

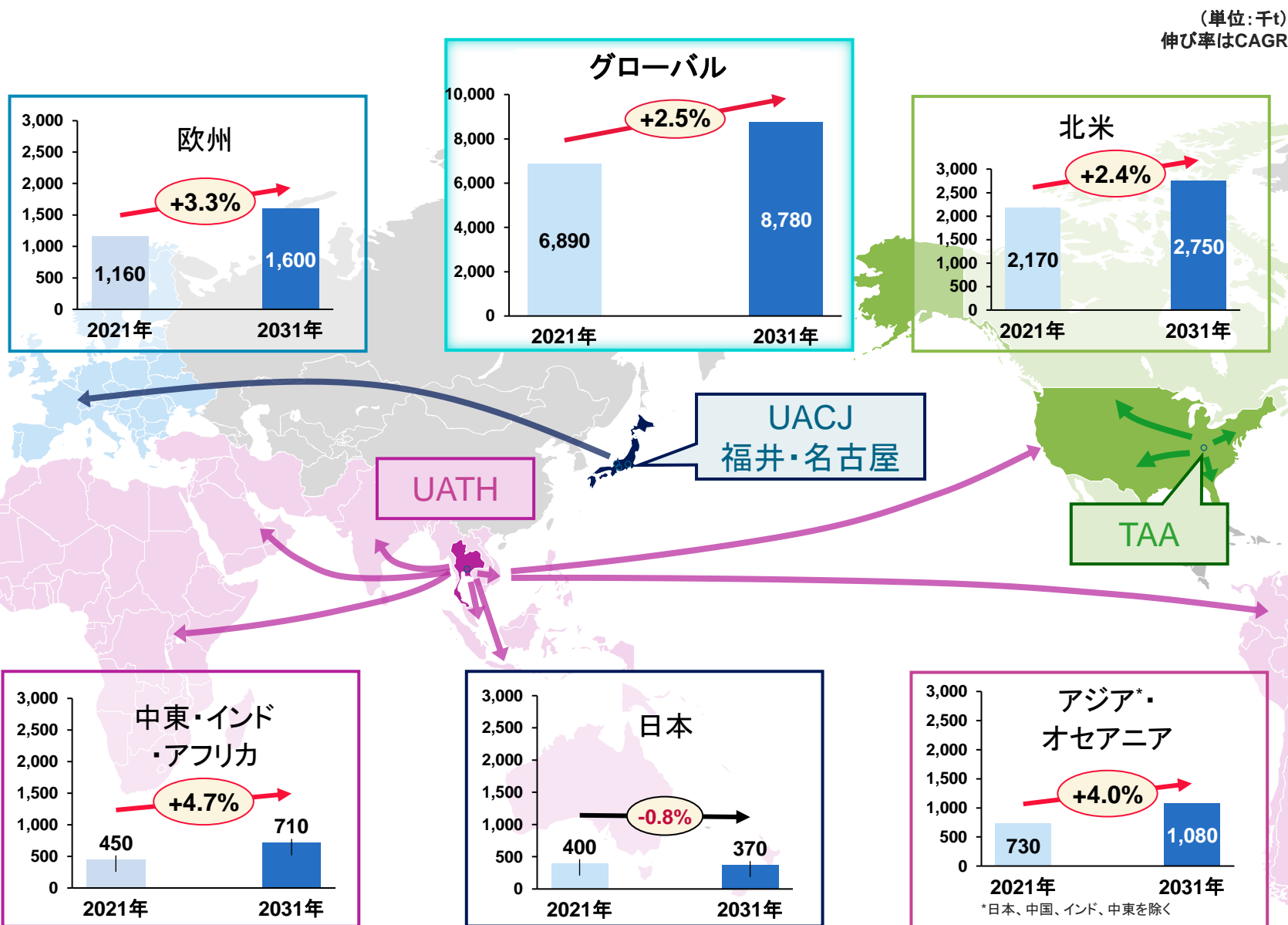
2

アルミニウム圧延材 グローバル需要予測

各分野において、アルミニウム需要は引き続き拡大傾向



アルミ缶材需要予測と主な供給拠点



北米

- 年平均成長率約3%の成長が見込まれる
- アルミのリサイクル性の高さを背景に、他容器からの置き換え需要が拡大

欧州

- 年平均成長率3%以上の成長が見込まれる
- ガラス瓶の置き換え需要が拡大

東南アジア

- 年平均成長率4%以上の成長が見込まれる
- 人口増加と経済成長(GDPの増加)に伴い、飲料の消費そのものが拡大

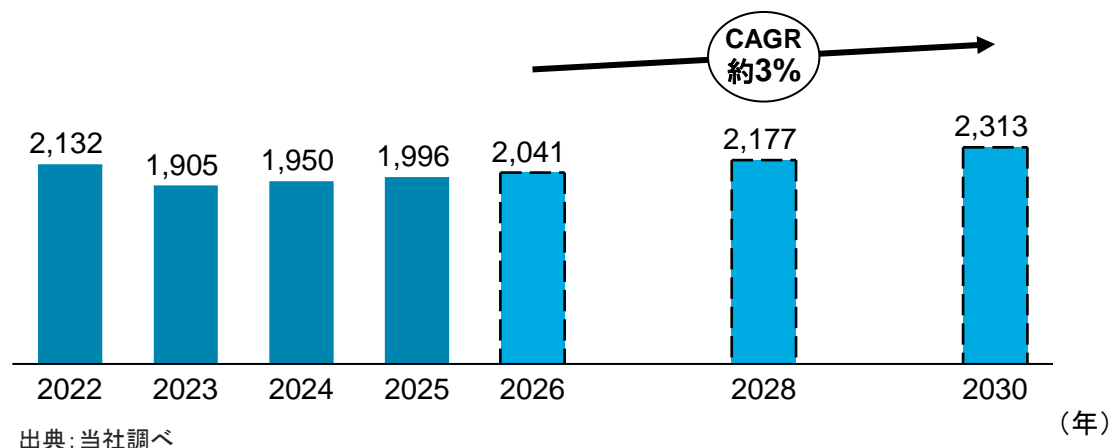
日本

- 2030年まで需要はほぼ横ばい〜微減と見込まれる

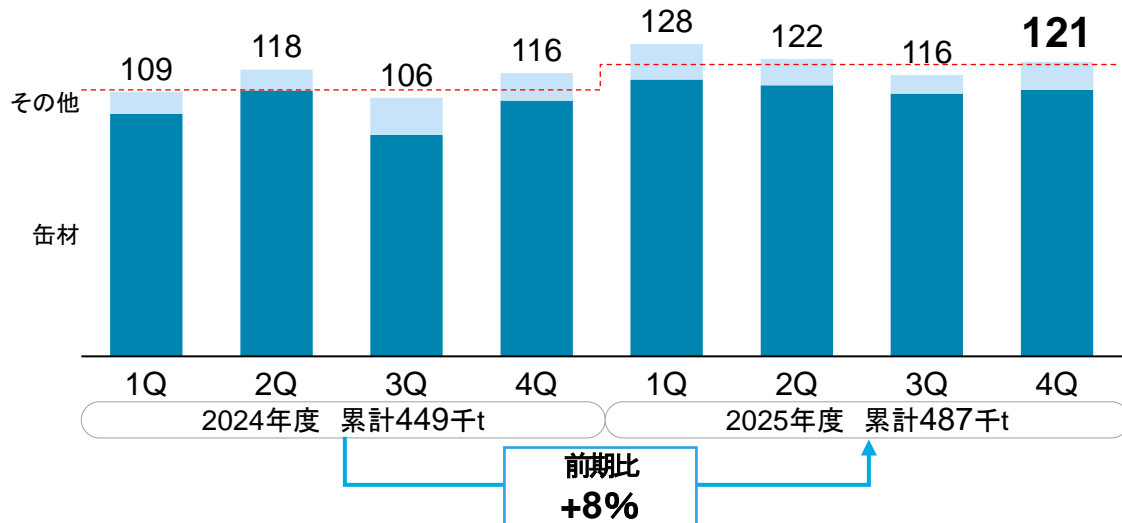
アルミ缶材 TAAハイライト

米国缶材需要は、2030年まで年平均成長率約3%で推移する見通しに変更なし

米国缶材需要の推移(千t)



TAA販売数量推移(千t)



市場環境

- 缶材需要は引き続き堅調。2030年まで年平均成長率約3%の成長見通しを維持
- 米国の新製品投入におけるアルミニウム採用比率の拡大、および消費者選好の高まりが缶材需要を牽引
- 米国内のコイル供給逼迫が継続し、輸入が高水準で推移する見通し
- 中東情勢に起因する生産・サプライチェーンの混乱は発生していない

生産・販売の状況

- 2025年度販売数量は前期比+8%。生産・販売ともに過去最高を記録
- 信頼性および即応性により差別化された競争優位性を確立
- 2029年までの長期契約で販売数量を確保済み
- 能力増強投資が本格稼働し、過去最高水準の収益性に貢献

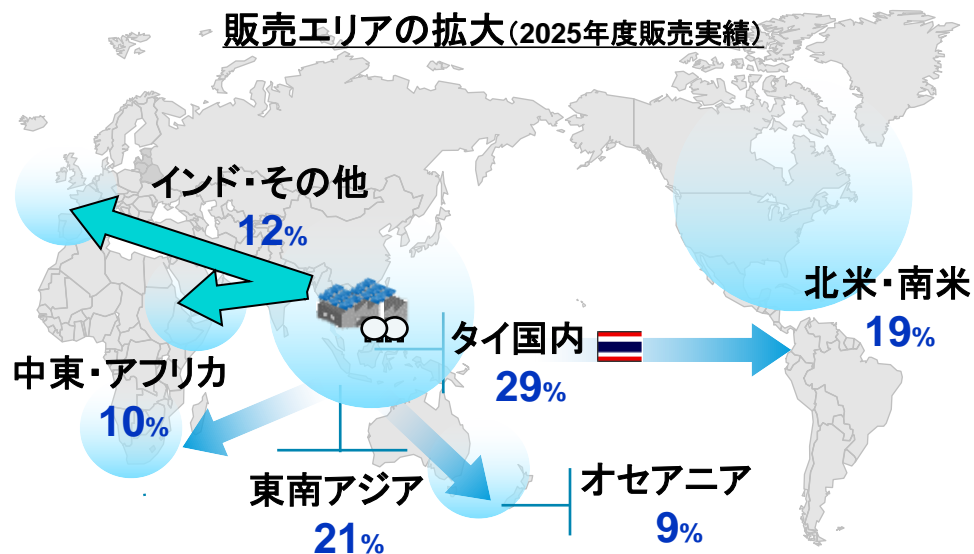
2026年度見通し

- 地政学的リスク、通商政策の不確実性を背景に、米国のアルミニウム取引価格は高水準で推移することを見込む
- スクラップ価格の記録的な好環境により、歴史的にも強い財務パフォーマンスを享受
- 能力増強投資がさらなる効率的な生産を実現し、競争力を一段強化
- 第5次中計期間に向けてさらなる生産能力の増強を検討

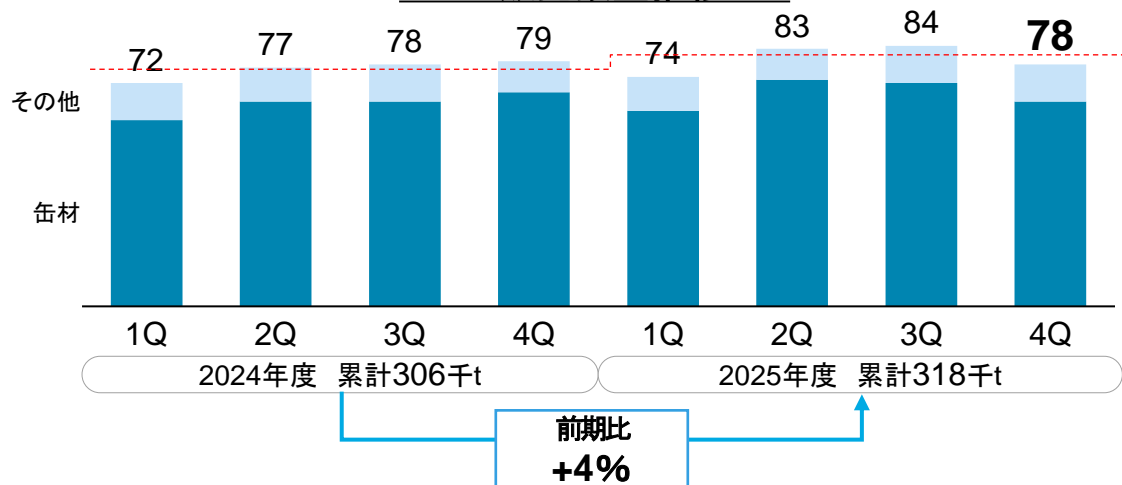
アルミ缶材 UATHハイライト

人口増加と経済成長にともなう飲料消費増加を背景に、需要は拡大傾向

販売エリアの拡大(2025年度販売実績)



UATH販売数量推移(千t)



市場環境

- 缶材のグローバルでの需要は拡大していく見通し。特に欧州・アメリカは需給がタイト、かつアジアの需要も底堅い
- 中国メーカーもコストアップにともない価格転嫁を進めている

2025年度の状況

- 2025年度の生産は順調に拡大
- 一部、中東向けの出荷があるも、割合は小さく影響は低い
- 為替変動(パーツ高ドル安)により、収益が圧迫される

2026年度の見通し

- 2028年度まで、TAAに対するサポートコイルの販売を継続予定
- UBC*調達ルート of 拡大により、生産コストの最適バランスを構築
- 旺盛なインド需要の取り込み等、生産・販売数量の拡大を図る
- 安定した品質・納期による差別化で価格改定を継続
- 欧州向け缶材出荷の開始により、販売ポートフォリオの改善を目指す

*UBC 使用済み飲料缶 (Used Beverage Can)

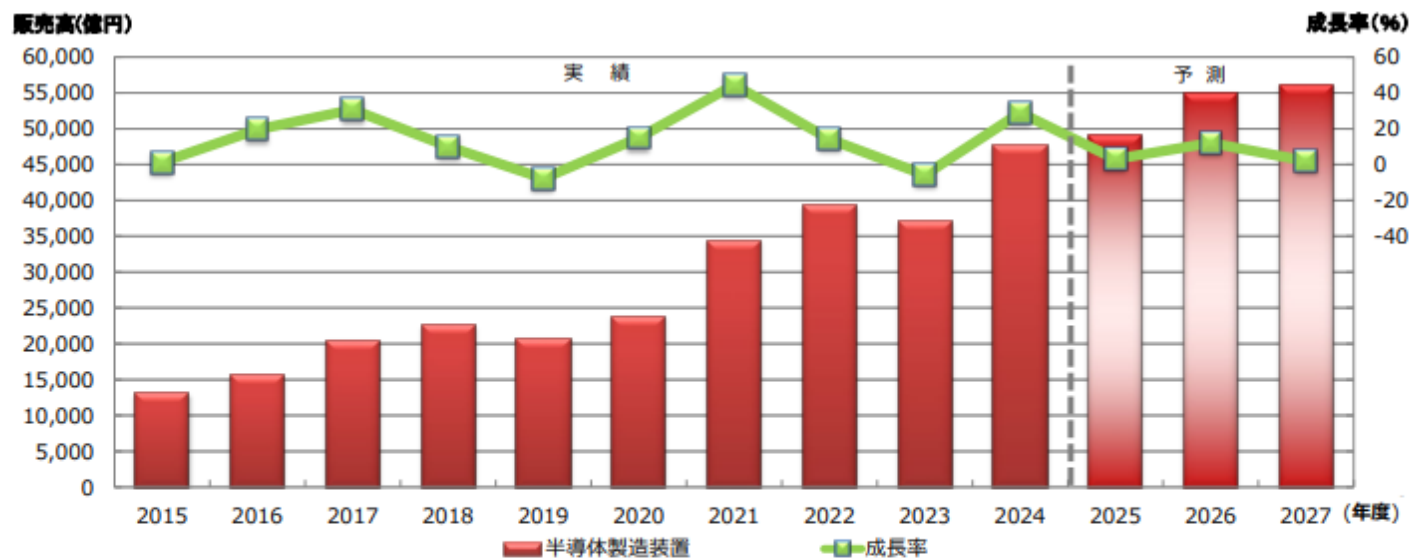
半導体製造装置関連の需要動向

2026年度、半導体製造装置向け厚板の需要が回復へ

半導体製造装置 需要予測

【日本製装置販売高予測】

*「日本製装置販売高」とは、日系企業（海外拠点を含む）の国内及び海外への販売高です。



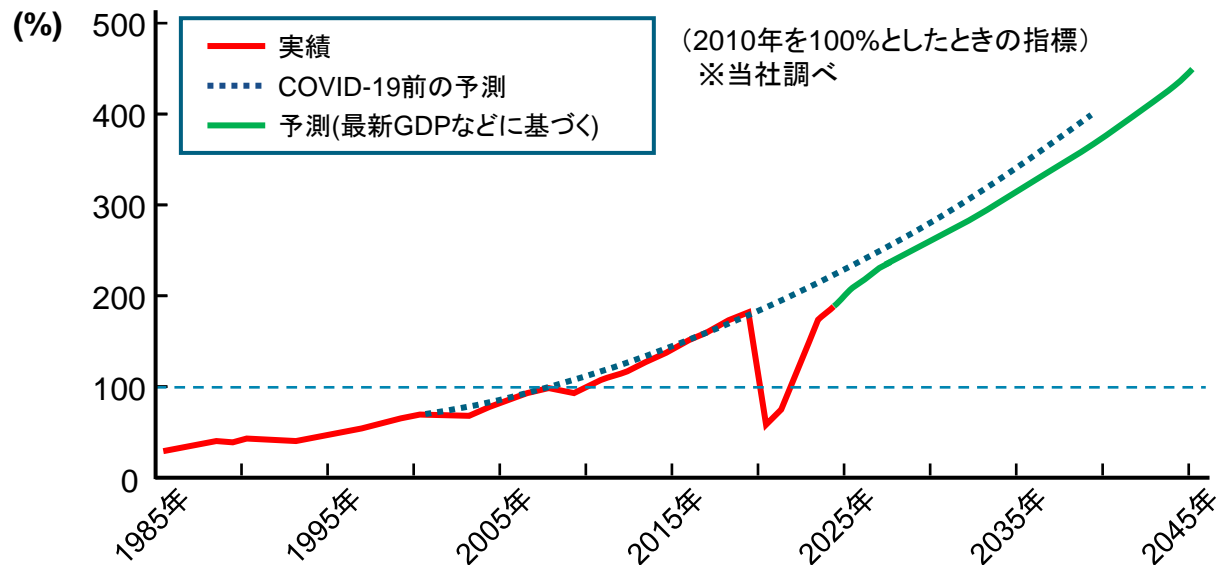
(CAGR : 2024年度 - 2027年度)

年度	実績										予測			CAGR
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
合計(億円)	13,089	15,642	20,436	22,479	20,730	23,835	34,430	39,275	36,976	47,681	49,111	55,004	56,104	
前年比成長率(%)	1.3	19.5	30.6	10.0	-7.8	15.0	44.4	14.1	-5.9	29.0	3.0	12.0	2.0	5.6%

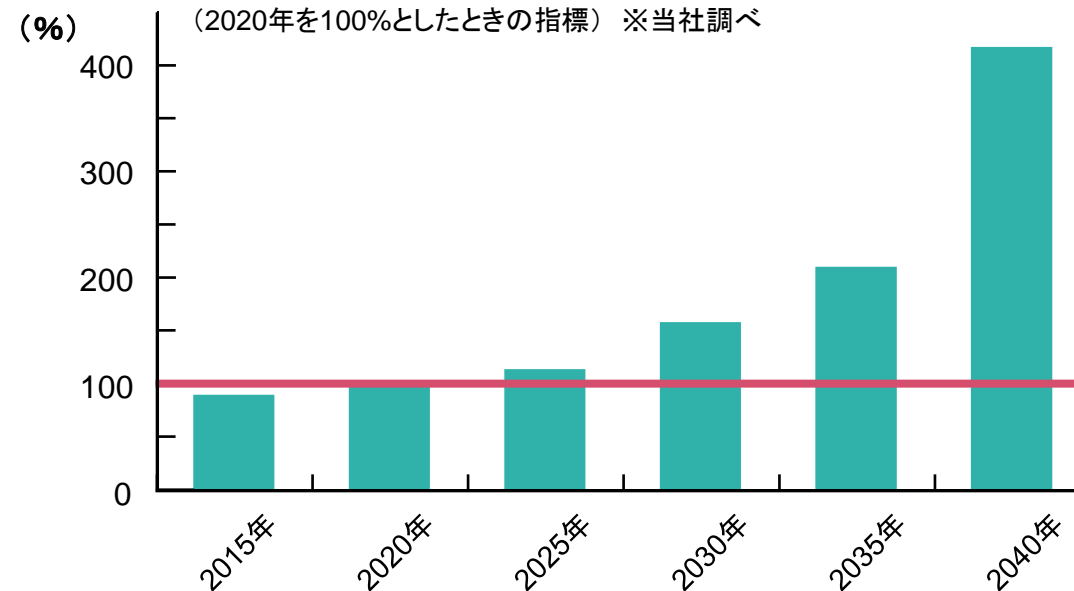
半導体製造装置向けに厚板を出荷
真空チャンバー用途で活用

航空宇宙・防衛材関連の需要動向

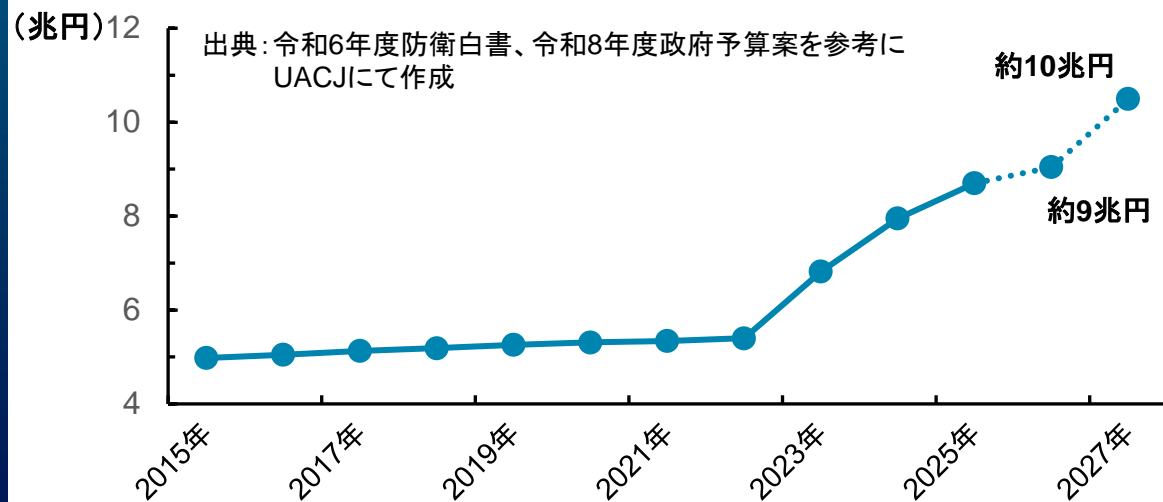
航空分野の需要動向(航空旅客輸送量推移)



宇宙分野の需要動向(宇宙産業の世界市場規模)



防衛分野の需要動向(日本の防衛関連費推移)



【取り組み施策】

- 航空旅客需要の回復 ⇒ 北米航空機メーカーの **認証取得**
- 宇宙市場の拡大 ⇒ 国内プライムメーカーでの **シェア拡大**
- 防衛予算の増額 ⇒ **増産体制構築**による需要捕捉

全分野で板・押出・鍛造の **供給力を最大化し**

2030年度売上 **2.3倍** (2024年度比) へ

航空宇宙・防衛材事業の成長に向けた重要な進展

航空宇宙・防衛分野の世界的なリーディングカンパニー・Safran社と戦略的パートナーシップを締結
鍛造品を皮切りに、両社の強みを生かして技術交流を促進

2026年3月31日 MOU (Memorandum of Understanding) を締結

2026年度中の量産に向け、まずはランディングギアホイールの供給体制確立を目指す



地政学的リスクの高まりを背景に、
サプライチェーンの強靱化と安定供給先を求める

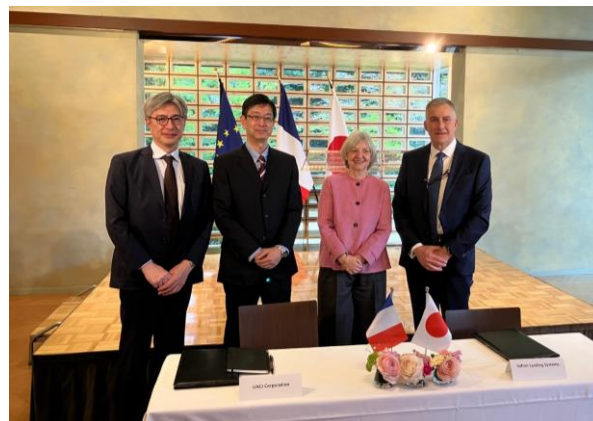
長期経営ビジョン「UACJ VISION 2030」達成に向け、
航空宇宙・防衛分野を成長の柱として
グローバル展開を加速



ランディングギアホイールイメージ(写真: Safran社提供)

UACJの貢献

1. 環境負荷低減とコスト競争力を両立する循環型生産体制
2. 大型部材の量産を実現する設備と豊富な経験
3. 日仏の強固な信頼関係に基づく安定供給期待への貢献



(右から)

Safran LS, Senior VP, Mr. Thierry Thomas
駐日フランス大使 Ms. Béatrice le Fraper du Hellen
経済産業省 航空機部品・素材産業室長 西山様
UACJ常務執行役員航空宇宙・防衛材事業本部長 高橋



フランス大使館での調印式の様子

(右) Safran LS Senior VP Mr. Thierry Thomas
(左) UACJ常務執行役員航空宇宙・防衛材事業本部長 高橋

ご参照) [仏Safran社と航空宇宙・防衛分野における戦略的パートナーシップでMOU締結
~2026年度中の量産開始に向け、ランディングギアホイールの供給体制確立~ \(2026年5月14日\)](#)

「超々ジュラルミン」が第4回 航空宇宙技術遺産に認定

歴史に裏打ちされた技術と信頼で、事業拡大と中長期的な企業価値向上を牽引



航空宇宙技術遺産認定式の様子

左からUACJ R&Dセンター所長 田中、日本航空宇宙学会 澤井秀次郎 前会長、
UACJ 社長 田中、同マーケティング・技術本部長 慈道

日本の航空宇宙技術発展における歴史的足跡

- 航空宇宙技術遺産:** 日本航空宇宙学会が日本の技術を後世へ伝えるため、航空宇宙技術史を形作る画期的な製品や技術を認定・顕彰する制度
- 歴史的発明:** 1936年、住友金属工業(当社前身)で発明された高強度合金で、当時の**最高強度**を実現、最大の課題だった**経年割れを世界で初めて克服**
- 認定の理由:** 世界中の航空機等へ派生合金含めて利用され、日本の航空宇宙技術史上、重要な技術として2026年5月に認定

UACJの技術的優位性と成長への寄与

- 受け継がれる技術と信頼:** 長年にわたり**蓄積された技術**と、派生合金を含む広範な活用実績を基にした**顧客との信頼**

付加価値の創出: R&Dセンターを中心に「**素材+α**」による付加価値を創出

長年にわたり蓄積された技術を活かし、航空宇宙分野の成長を掴む

1 2025年度業績および2026年度通期見通し

2 事業環境認識

3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 ご参考

3

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

株主還元方針

2025年度期末配当金を上方修正(前回公表比+10円/株)し、年間配当金を55円/株へ

2026年度年間配当金は58円/株(前年比+3円/株)を計画

株主還元方針 (第4次中期経営計画)

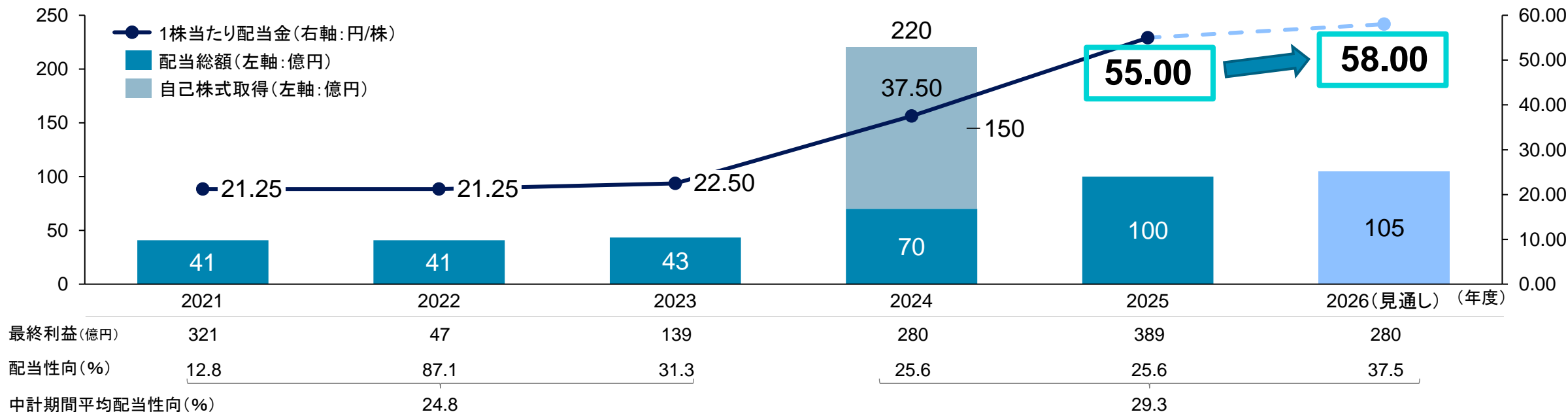
基本方針: 安定的かつ継続的な配当を目指す
中期計画: 第4次中計(24~27年度)期間中の配当性向は最終利益の30%以上が目標

2025年度配当予想

年間**55円/株** (中間配当金**20.0円/株**、期末配当金**35.0円/株**) ※期末配当金 2026年2月公表比+10円/株

2026年度配当計画

年間**58円/株** (中間配当金**29.0円/株**、期末配当金**29.0円/株**)



*2022年度以前は日本会計基準、2023年度以降は国際会計基準(IFRS)

3

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

資本収益性の向上、株価を意識した経営

エクイティスプレッド創出に向け、企業価値の向上と資本コストの低減に注力

企業価値の創出



収益性の向上

- ✓ 価値創造プロセス
- ✓ 事業戦略・成長シナリオ
- ✓ 事業利益 600億円
- ✓ ROIC目標 9%
- ✓ 事業利益+金利・税マネジメント

成長投資

- ✓ 中期経営計画の成長投資
⇒リサイクル分野への支出
(設備投資、研究開発費)
- ✓ 航空宇宙・防衛分野への投資

企業価値を作り出す源泉(EBITDA)

資本コストの低減



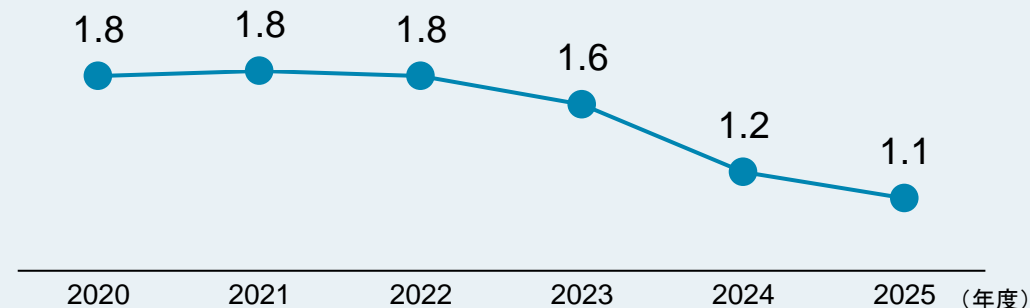
財政状態の安定化

- ✓ バランスシートの最適化の実現
⇒財務健全性
- ✓ 資金調達力の強化
- ✓ 効率的な経営資源の活用

株主資本コストへの対応 -β値の改善-

- ✓ 資本市場との対話
- ✓ 情報開示の強化
- ✓ 非財務分野での価値創出

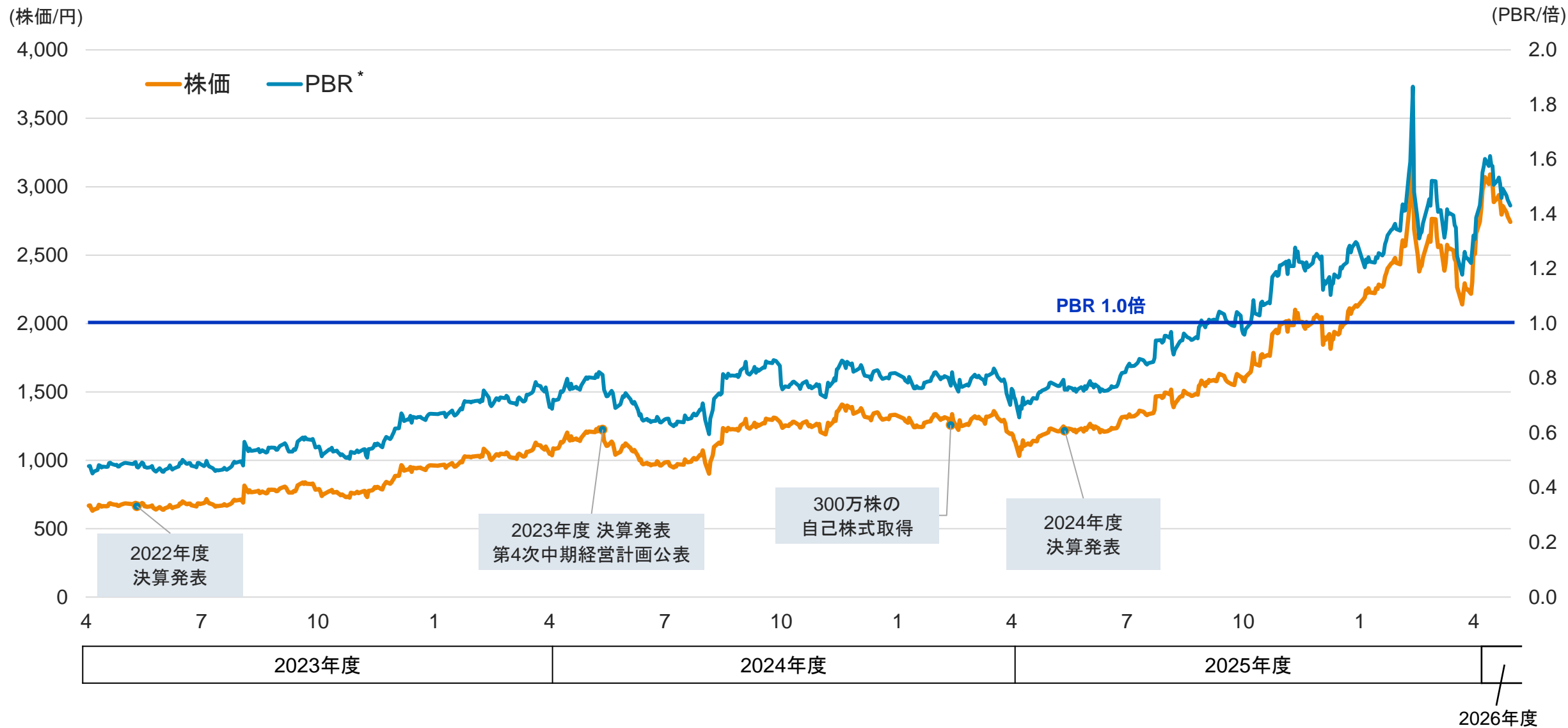
β値推移



3

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

株価およびPBR推移



*PBR = 株価 / 1株当たりの親会社の所有者に帰属する持分 (2026年3月末)

IR-DAYのご案内

日時

2026年5月29日(金) 9:30~11:30

開催形式

オンライン(ZOOM)

登壇者

代表取締役 社長執行役員 田中 信二

取締役執行役員 財務本部長 岡田 浩三

副社長執行役員 板事業本部長 橋本 圭造

専務執行役員 兼 TAA CEO 兼 UNA CEO

Henry Gordinier

1 2025年度業績および2026年度通期見通し

2 事業環境認識

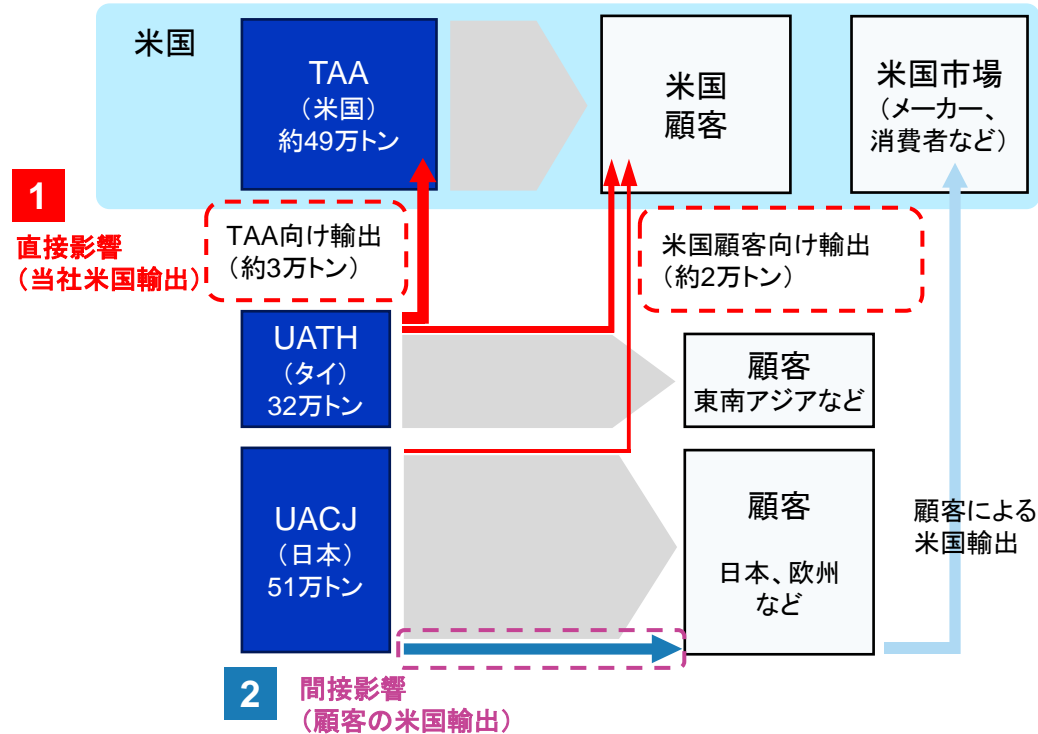
3 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

4 **ご参考**

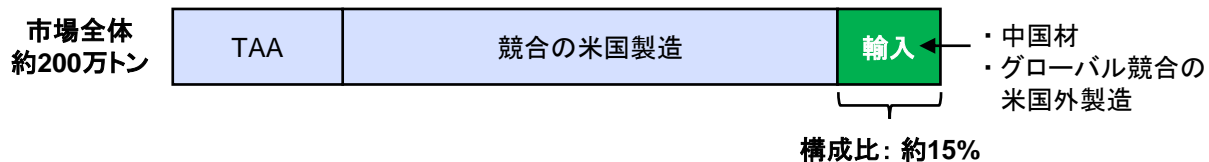
4 | 参考 アルミニウム製品を取り巻く米国追加関税とその影響

関税はTAAの収益を押し上げる要因へ。2028年までUATHからコイルの輸入を継続見通し

■ 板事業の販売構成 ※数値は2025年度販売数量



■ 米国缶材市場の構成 (2025年) ※UACJ推定



■ UACJグループへの影響

分野	UACJグループへの主な影響
1 直接影響	
缶材	<ul style="list-style-type: none"> 25年は契約済みの販売量に大きな変動はない見込み 26年以降は、追加関税・適用除外制度は廃止されるが、UATHからの販売は28年まで継続する計画
自動車関連材	<ul style="list-style-type: none"> 米国内競争の工場閉鎖を受け、日本・タイから輸出する自動車関連材の販売が増加する可能性
2 間接影響	
自動車関連材	<ul style="list-style-type: none"> 日本、またメキシコ等から米国への輸出台数の減少により、自動車関連材の販売が減少する可能性
日本の顧客が米国へ輸出するアルミニウム部品	<ul style="list-style-type: none"> 米国内に代替供給先がない製品が多いため、販売が短期間で減少する恐れは低い
■ 米国拠点 (TAA、UWH) への影響	
缶材	<ul style="list-style-type: none"> 米国製缶メーカーの地産地消傾向がさらに強まる可能性
自動車関連材	<ul style="list-style-type: none"> 米国OEMの米国製部品への切り替えにより、UWHへの部品引き合いが増加する可能性
原材料	<ul style="list-style-type: none"> 新地金価格 (MWP*) は上昇 スクラップ価格は今後の動向を注視

*MWP ミッド・ウエスト・プレミアム

4

ご参考

主要指標推移

日本会計基準

IFRS

	日本会計基準			IFRS							
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 1Q(単)	2025年度 2Q(単)	2025年度 3Q(単)	2025年度 4Q(単)	2025年度	2026年度 (見通し)
連結売上高	5,698	7,829	9,629	8,928	9,988	2,620	2,781	3,015	3,401	11,817	13,000
連結営業利益	111	595	172	314	574	85	141	285	258	769	640
事業利益	-	-	-	434	459	79	90	171	142	482	650
棚卸資産影響前 連結経常利益	62	213	161	-	-	-	-	-	-	-	-
連結経常利益	60	523	87	-	-	-	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△33	321	47	139	280	13	61	175	140	389	280
設備投資 一般投資	109	129	210	217	188	23	54	51	80	208	300
戦略投資	72	79	54	114	231	89	105	51	74	319	200
合計	181	207	264	331	419	112	159	102	154	527	500
減価償却費	334	340	373	364	381	95	98	104	104	401	440
有利子負債残高	3,358	3,394	3,367	3,109	3,407	3,788	3,658	3,821	3,887	3,887	-
ROE (%)	△1.8	15.6	1.9	5.3	9.9	-	-	-	-	12.2	8.1
ROIC (%)	2.2	11.1	3	7.5	7.6	-	-	-	-	7.1	9.1
D/Eレシオ(倍)	1.56	1.36	1.25	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
営業キャッシュ・フロー	386	78	526	949	91	△ 82	363	△ 4	363	640	-
投資キャッシュ・フロー	△ 210	△ 210	△ 269	△ 362	△ 369	△ 172	△ 185	△ 88	△ 150	△ 595	-
フリーキャッシュ・フロー	177	△ 132	257	587	△ 278	△ 254	178	△ 92	213	45	-
株主資本(日本基準)	1,775	2,090	2,096	2,105	2,139	2,096	2,150	2,275	2,423	2,423	-

4

ご参考

海外主要子会社 業績推移

	2024年度							2025年度							2026年度
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期(予)
UATH															
販売量(千トン)	72	77	149	78	79	157	306	74	83	157	84	78	162	319	345
売上収益	453	494	947	521	546	1,067	2,014	467	525	992	568	614	1,182	2,174	2,232
事業利益	19	11	30	6	△ 2	4	34	0	5	5	3	△ 21	△ 18	△ 12	23
(棚卸資産影響等)	33	△ 4	29	△ 11	2	△ 9	20	△ 15	△ 10	△ 25	39	39	78	53	0
営業利益	52	7	59	△ 5	0	△ 5	54	△ 15	△ 5	△ 19	42	18	60	41	23
TAA															
販売量(千トン)	109	118	227	106	116	222	449	128	122	250	116	121	237	487	478
売上収益	713	721	1,434	685	798	1,483	2,917	845	952	1,797	1,032	1,259	2,291	4,088	4,552
事業利益	83	77	160	52	37	89	249	50	53	103	99	107	206	310	591
(棚卸資産影響等)	24	△ 2	22	21	36	57	79	16	73	89	83	128	212	300	△ 78
営業利益	107	75	181	73	74	147	328	66	126	192	182	236	418	610	513
UWH															
売上収益	101	93	195	84	96	180	375	94	100	194	96	105	200	395	405
事業利益	5	3	8	△ 2	8	6	14	1	7	8	1	0	1	9	△ 1
(棚卸資産影響等)	△ 1	0	△ 2	0	△ 3	△ 3	△ 5	△ 1	△ 1	△ 2	0	△ 58	△ 57	△ 59	△ 2
営業利益	4	2	6	△ 2	5	3	9	△ 0	6	6	1	△ 57	△ 56	△ 50	△ 2

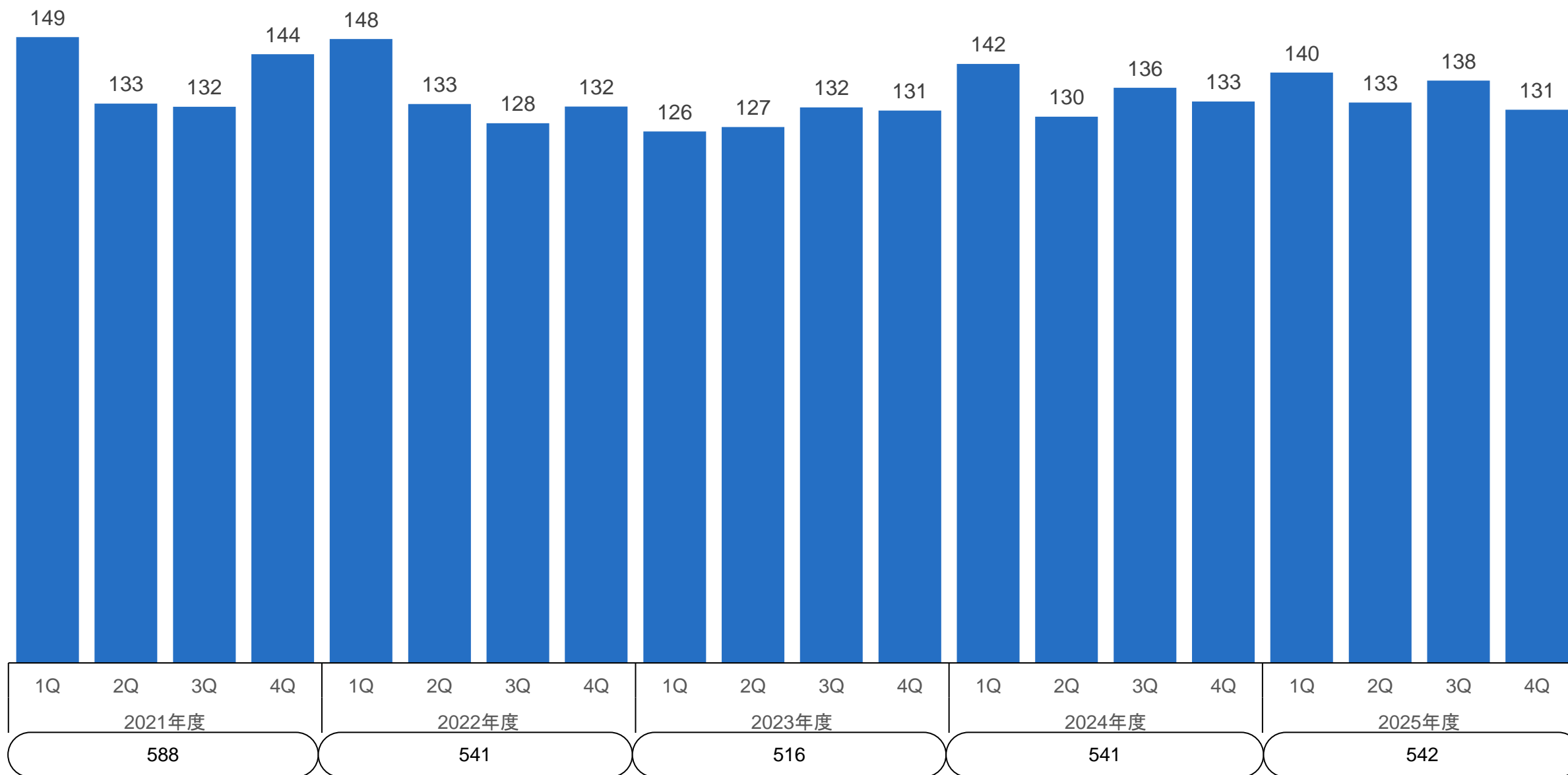
*UATH、UWHの棚卸資産影響等には減損損失を含む

4

ご参考

国内板 販売数量推移

(千t/Q)

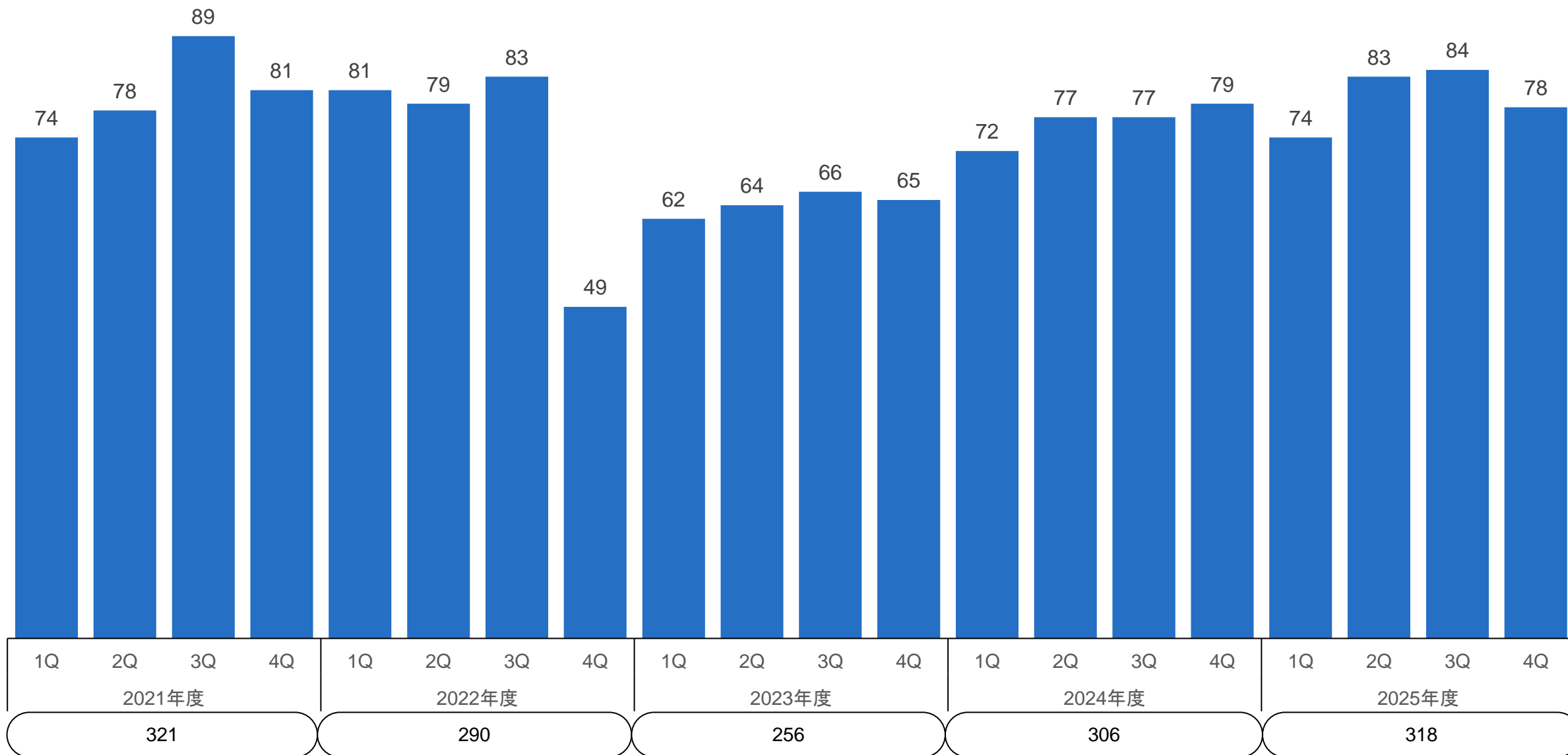


4

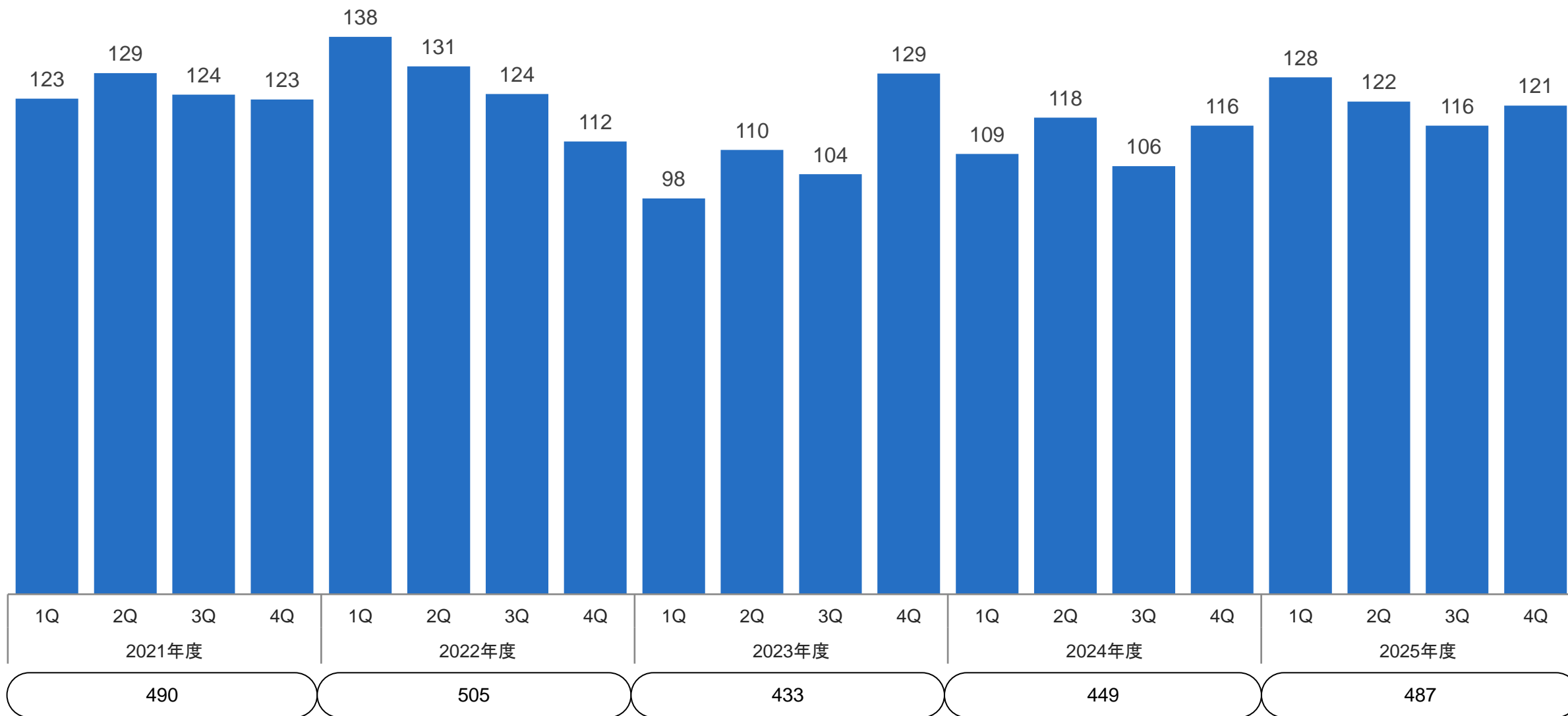
ご参考

UATH 販売数量推移

(千t/Q)



(千t/Q)



4

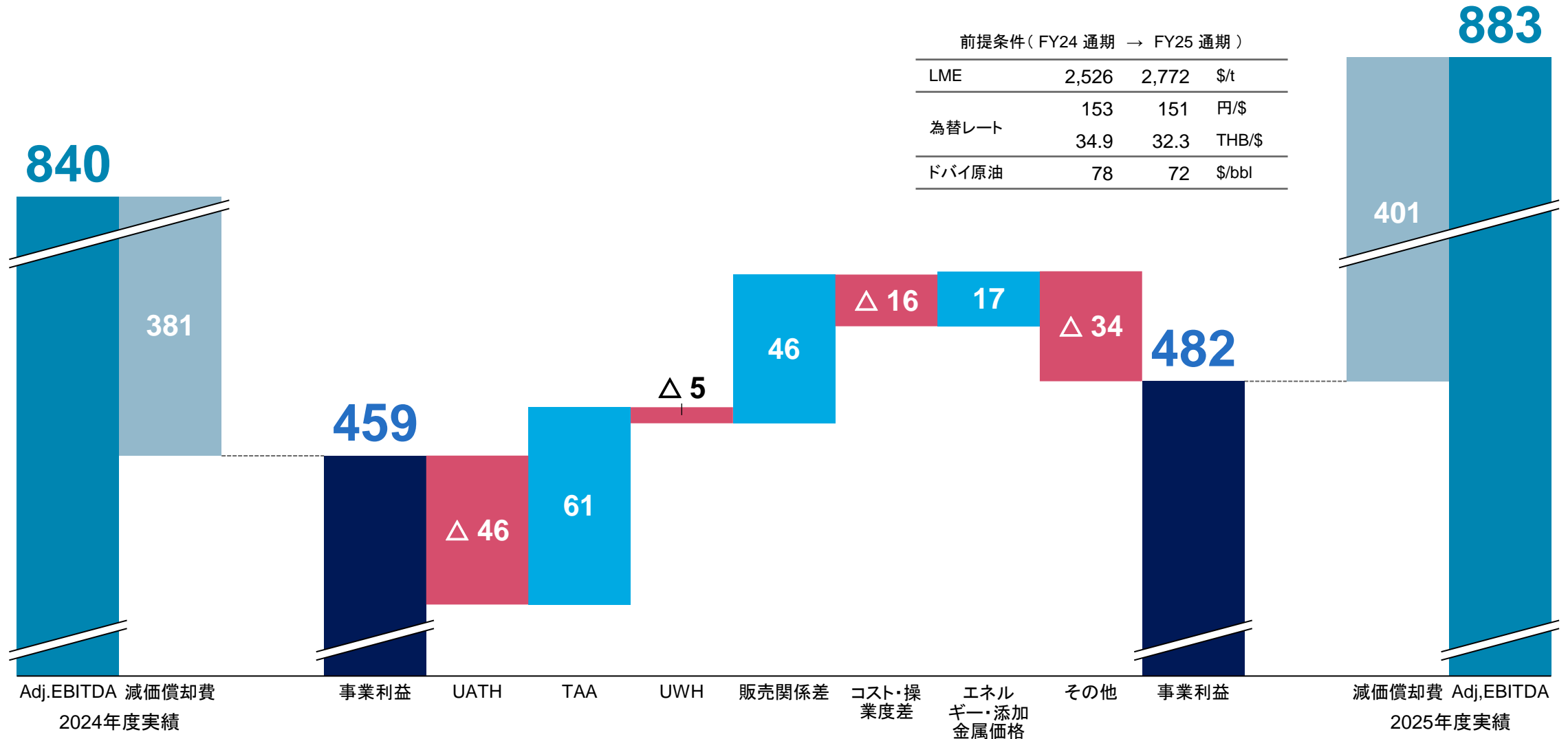
ご参考

【24年度実績 対 25年度実績】事業利益・Adjusted EBITDA 分析

販売数量の増加、リサイクル原料活用および価格改定効果等が収益に貢献

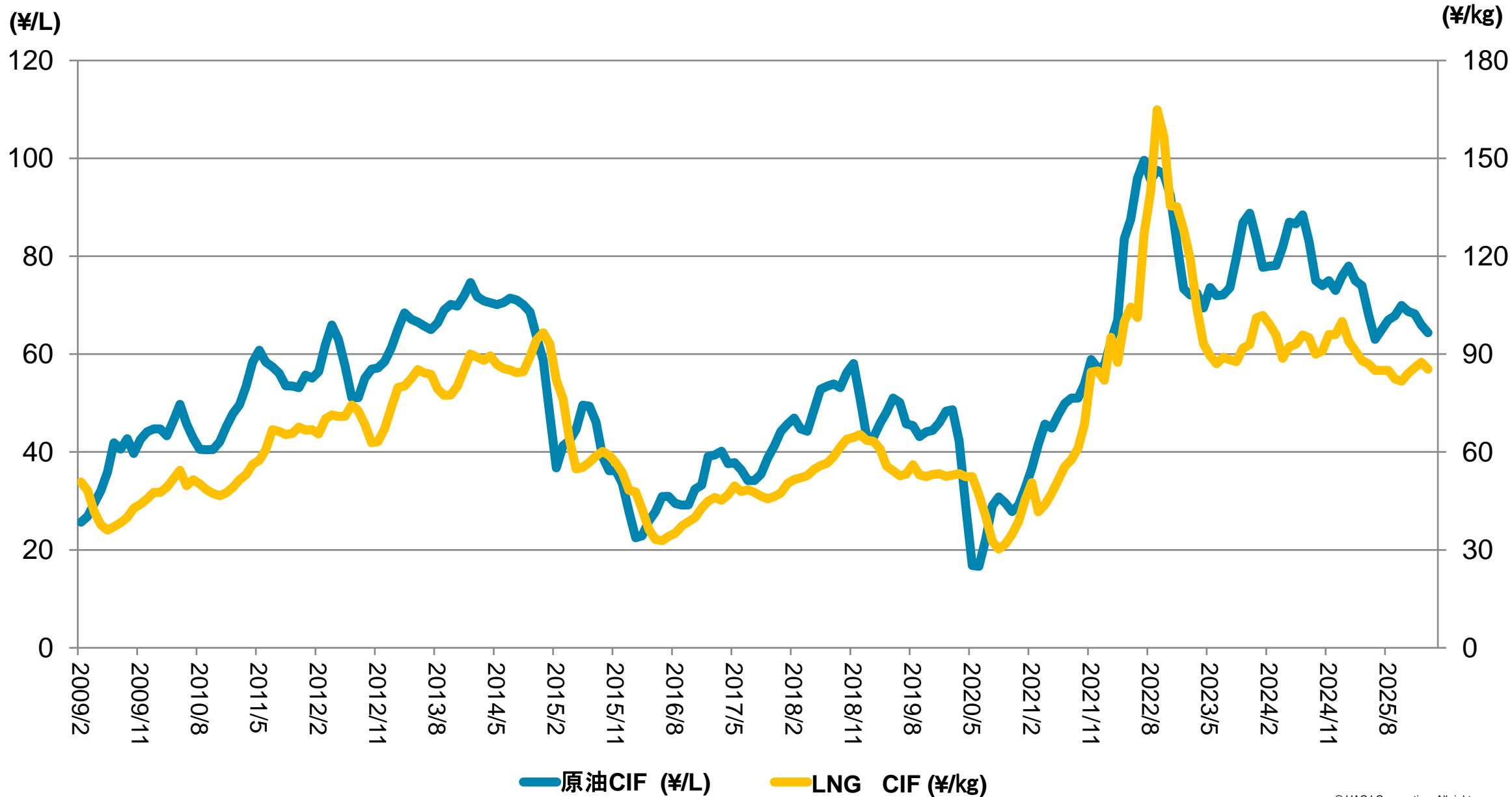
前提条件 (FY24 通期 → FY25 通期)

LME	2,526	2,772	\$/t
為替レート	153	151	円/\$
	34.9	32.3	THB/\$
ドバイ原油	78	72	\$/bbl

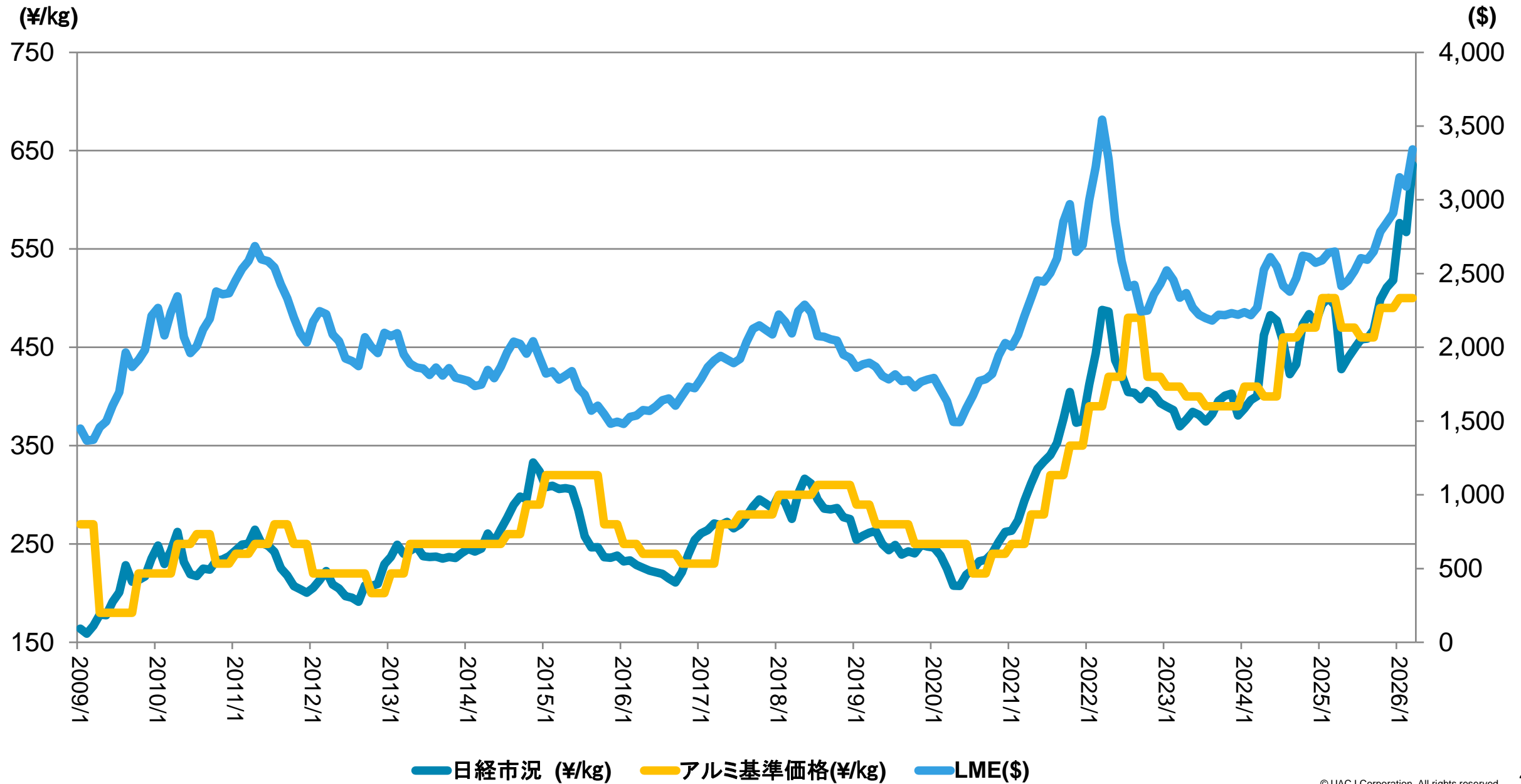


4 | 燃料単価推移

ご参考



4 | ご参考 アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



4

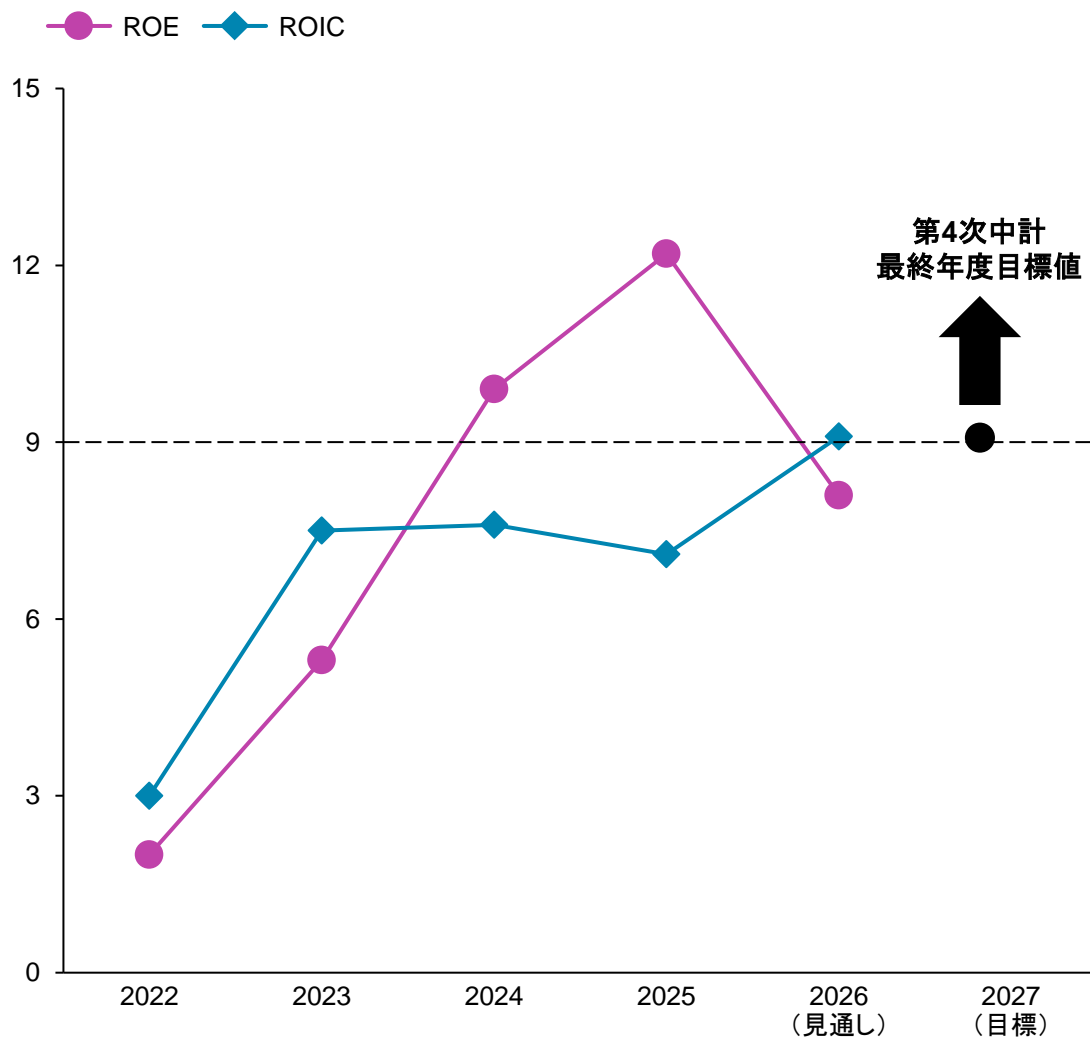
ご参考

諸元と感応度

	2024年度 期中平均	2025年度 期中平均	2026年度 前提	営業利益への感応度
LME(米\$)	2,526	2,772	3,200	\$100/t上昇した場合 →+22~35億円/年 ※棚卸資産影響等に含まれるため、事業利益への影響はない
為替 (円/米\$)	153	151	153	<ul style="list-style-type: none"> 燃料単価、添加金属:円高が有利 ロールマージン、為替換算差:円安が有利
為替 (円/タイバーツ)	4.4	4.7	4.7	
為替 (タイバーツ/米\$)	34.9	32.3	32.5	<ul style="list-style-type: none"> 燃料単価、添加金属:THB高が有利 ロールマージン、為替換算差:THB安が有利
原油 (ドバイ:米\$)	78	72	90	10\$上昇した場合 →△10~15億円/円 ※サーチャージ制一部導入済み

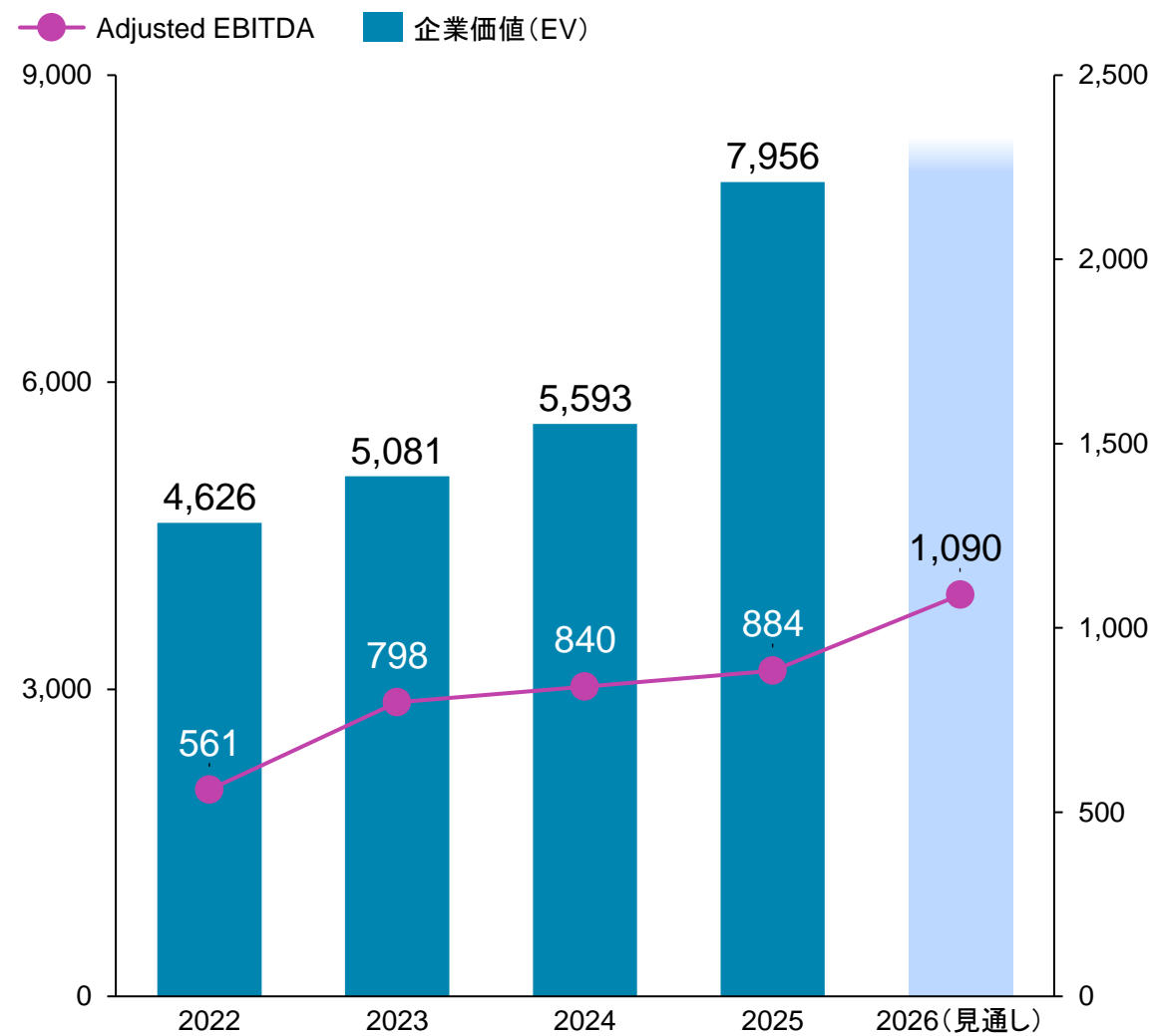
資本収益性と企業価値創出力

ROE、ROIC推移(%)



*ROICは事業利益を分子として算出

Adjusted EBITDA、企業価値(EV)推移(億円)



*企業価値(EV): 時価総額+有利子負債残高-現金及び現金同等物+非支配株主持分



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上収益及び利益等の計画や見通しのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上収益及び利益等と、この資料に記載されております計画や見通しとは、今後さまざまな要因により大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR 関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いします

株式会社UACJ

コーポレートコミュニケーション本部 IR・広報部

uacj_ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

東証プライム
証券コード

5741